

学友会報



兵庫県立大学設立から 21年目を迎えて

兵庫県立大学 学長 高坂 誠

社会変動も気候変動も揺れ幅が大きく、不確実性が時代精神のように思える日々ですが、学友会構成員のみなさま、関係者のみなさまにおかれましては、お元気でご活躍のことと拝察いたします。また日頃より兵庫県立大学の運営や教育研究活動に多大なご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

大学の近況をご報告すると、令和7年度春期入学生として学部学生1300名、大学院生503名、合わせて1803名を、また9月の秋期入学生として国際商経学部グローバルビジネスコース(GBC)、大学院社会科学研究科グローバルビジネス専攻(GB)を合わせ36名の留学生を、迎えることができました。今年度、留学生の出身国に新たに加わったのはウガンダ、エジプト、イタリア、ハンガリー、カナダ、コロンビアで、現在30カ国以上の学生が主に神戸商科キャンパスで学んでいます。

本学は2024年11月に創立20周年を祝う記念式典を開催し、式典に合わせて「兵庫県立大学ビジョン2036」を公開しました。若年人口の減少や研究環境の国際化の遅れなど、大学を取り巻く状況が困難さを増すなかで、グローバル化する地域社会の負託に応え、未来社会が必要とする、世界に通用する大学に姿を変えていくための現時点での行程表を、私たちの決意とともに示したものです。本学のHPに上げていますので、ご一読いただけますと幸いです。

現代社会の動向と大学について少し触れると、DX(Digital Transformation)は私たちを取り巻く社会環境を一変させ、教育や研究のかたちを根底から覆しました。ビッグデータを駆使するAIは論文の作成はおろか、画像、映像に至るまで瞬時に作成する力を持ち、工学や医療分野におけるシミュレーション・実験でも、技術革新に大幅な時間短縮をもたらしています。

本学ではこれらの流れを受け、経済研究所としてスタートし70有余年の歴史を誇る政策科学研究所をソーシャルデータサイエンス研究所に改編(本年4月)、自治体等が抱える政策課題や社会的要請に対して、最先端のICT技術を駆使し課題解決をめざすべく新たな活動を開始しました。

本年は1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災から30年目にあたります。私たちは災害に備えること、想定外に備えることを教訓とし、国内外から差し伸べられた多くの温かい手に支えられて、創造的復興(Build Back Better)に取り組んできました。今後も大学院減災復興政策研究科を中心に、レジリエントな社会づくりを目指してさまざまな教育・研究活動に従事していく所存です。

最後に、学友会のみなさまには健康にご留意されるとともに、引き続き温かいご支援やご助言をいただきますようにお願いして、筆を置きます。



第13号によせて

兵庫県立大学学友会 会長 岡村 武和

2025年10月25日、兵庫県立大学 神戸商科キャンパス i-Square Common Areaにおいて「第二回 英語スピーチコンテスト」が5年ぶりに開催されました。コロナ禍により中断を余儀なくされていましたが、このたび無事に再開できましたことを大変うれしく思います。

開会にあたり、まず拙いながらも私より英語スピーチを申し上げ、その後、国際商経学部の小宮一高学部長から素晴らしい英語によるご挨拶を頂戴しました。Intermediate Level Speechには国際商経学部経済学コース2名、グローバルビジネスコース(GBC)2名、工学部2名、理学部2名、計8名、Advanced Level SpeechにはGBC5名、工学部1名、計6名の合計14名が参加し、いずれも熱意に満ちたスピーチを披露してくれました。

昭和48年当時、神戸商科大学入試の英語は「関西で最も難しい」と大学入試シリーズ(赤本)に記されていたことを思い出します。長文読解と英作文が中心で、単語も3万語ほど覚えたものです。また、当時は理系学生の英語が必ずしも得意ではない印象もありました。ESS以外にスピーチに触れる機会も限られていたので、今回、理工学部から5名もの参加があったことに、時代の変化と本学におけるグローバル化の進展を改めて感じました。とりわけGBCには約40か国から学生が集い、多くが母語と英語のバイリンガルとして学んでいます。参加者14名のうち、海外出身者はGBCの3名であり、残る11名は日本人学生でした。今回のコンテストは、まさに“More moving speeches than those of Steve Jobs.”と形容したくなるほど感動的な内容で、審査員からも非常に高い評価を得ました。卒業生としても大変誇らしく感じております。

次回は、看護学部・環境人間学部の学生にも参加していただき、全学部を挙げての開催へと広げられることを期待しています。

最後になりましたが、本スピーチコンテストの開催にあたりご尽力いただいたすべての関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

第2回 英語スピーチコンテスト

10月25日に開催された第2回英語スピーチコンテストには、さまざまな学部から合計14名の学生が参加しました。中級と上級で競技を行い、完成度の高いスピーチを披露しました。テーマは多彩で「地球温暖化」「幸せ」「動物の権利」「LGBTQの権利」「不死の望ましさ」「日本人のイメージ」「ジャーナリング」「自己感謝」「ソーシャルメディアと創造力」に加え、「無意識のバイアス」「犬の安楽死」「AI時代におけるニュースの信頼性」「自分の生き方を見つける」「異なる言語が思考に与える影響」など、幅広く取り上げられました。学生たちは想像力豊かにスピーチを展開し、すべての発表が印象的でした。

丹後大学駅伝

11月15日に第87回関西学生対校駅伝競走大会が開催されました。

2年連続で出場することができたのは、ご支援あってのことだと思っております。出場選手としてできることは、良い結果をもって恩返しすることと考えておりましたが、22大学出場で18位と、皆様のご期待に応えられるような結果とはなりませんでした。それでも、チームとしては今大会に出場できたことを誇りに思っております。

来年度に向けては、3年連続出場を目指して、より一層精進してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(陸上競技部)



第38期姫路工業倶楽部通常総会・記念講演会・懇親会



姫路工業倶楽部の第38期の通常総会が、2025年5月17日姫路キャッスルグランヴィリオホテルにて開催されました。

総会後の記念講演会では、約200名のご参加を頂き、陸上競技女子1,500mの元日本記録保持者でオリンピックにも出場された小林祐梨子氏から「人との絆(たすき)に込めた思い」の演題でお話して頂きました。部活やオリンピック予選会での裏話など、笑いあり涙ありの内容に多くの参加者から「とても良かった」との好評を得ました。

講演会後の懇親会では、ご講演頂いた小林祐梨子氏も参加して頂き、学生サークルのJazz研究会による生演奏など大いに盛り上がりいました。

県大バス 活躍

県大バスは平成31年より導入し、フィールドワークやゼミ活動をはじめ、課外活動等においても本学の学生・教職員が幅広く利用しています。平均して毎月20日間は運行しており、一年中大盛況となっています。「県大バスはありがとうございます」という利用者の声を直に聞くことも多く、学友会の皆様には心より感謝申し上げます。

6月に、留学生と日本人学生の交流活動の推進を図ることを目的とした国際交流プログラムが実施され、県大バスが利用されました。「兵庫県立人と自然の博物館」で、兵庫県の地形や地質についての学びを深めるとともに、「丹波伝統工芸公園 陶の郷」での陶芸体験を通じ、兵庫県の歴史や伝統文化への関心を高める内容でした。参加した学生からは「バスの中でも留学生と交流ができる楽しかった」「普段あまり関わることのない留学生と日本文化について学べたことが楽しかった」「グループに分かれて行動することで、留学生とも積極的に話すことができた」等の感想を聞くことができました。

県大バスの存在は、留学生と日本人学生の交流を深める大きな架け橋にもなっています。

(兵庫県立大学事務局教育企画課)



《五国 豊 積》～県立大学のお宝紹介～

姫路工学キャンパス きずなの像

彫刻家 岡田憲一氏オリジナル作品「きずな」(2025年4月書写紀念会館前に移転完了の除幕式)1994年8月工学部にとって「発祥の地」である神戸市長田区五位ノ池町(1994年兵庫県立高等工業学校が建立された地)に完成しました。阪神淡路大震災では、被害も免れ、損傷も受けませんでした。神戸市の善意により無償で設置されてきましたが、神戸市から再開発のため移転の申し込みがあり、姫路工学キャンパスに移転することになりました。



住所等の変更は、学友会事務局へご連絡をお願いします。

同窓会活動の推進を図るために保有する学友会会員の個人情報については、個人情報保護法の主旨に則り、適切な管理を行っています。

〒651-2197 神戸市西区学園西町8丁目2-1 兵庫県立大学神戸商科キャンパス内

Tel&Fax:078-793-5081 E-mail:gakuyuukai@gk.u-hyogo.ac.jp https://www.gakuyuukai.org/